

シラバス

授業科目	薬理学特論		
(英 文 名)	Advanced Pharmacology		
担当教員	塩見浩人 他		
単位数(期別)	1(前)	対象学生	1・2MP

■授業のねらい・概要■

薬理学や臨床薬理学研究における最新の成果を Small Group Discussion (SGD) で検討することにより、育創薬に必要な研究の立案能力や、最新の薬物治療法についての薬理学的な解析・批判ができる能力を養う。取り上げる内容は受講者からも提案させる。

■授業(学習)の到達目標■

1. 薬理学、生理学の最新の成果を理解し説明することができる。
2. 研究の方略を組み立てることができる。
3. 薬理学、生理学、病理学等の成果を収集し、臨床への応用を考えることができる。
4. カルテと処方箋やより薬物療法の意図を理解できるとともに、副作用発現などの可能性を理論的に推定することができる。

■回数ごとの授業内容■

- 1 中枢神経系に作用する薬物（向精神薬など）に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(塩見)。
- 2 中枢神経系に作用する薬物（鎮痛薬など）に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(塩見)。
- 3 代謝性疾患（糖尿病など）とその治療薬に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(田村)。
- 4 循環器系に作用する薬物に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(西尾)。
- 5 虚血性細胞死の機序とその抑制に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(田村)。
- 6 血液系に作用する薬物に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(西尾)。
- 7 免疫系に作用する薬物に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(西尾)。
- 8 時間薬理学と時間治療に関する最新の薬理学の成果を取り上げ紹介するとともにその内容を SGD で深める(塩見)。

■成績評価の方法・基準■

SGD での発表内容、討論への参加、課題に対するレポートについて総合的に評価する。出席数も評価に組み入れる。

■使用テキスト■

テキストは使用しない。 学術雑誌より時々の興味ある最新の成果を取り上げる。

■参 考 書■

学術雑誌、臨床医学（文光堂）、今日の治療指針（医学書院）、新臨床内科学（医学書院）、薬剤師・薬学生のための臨床医学（文光堂）、ファーマコセラピー ～病態生理からのアプローチ～（ブレイン出版）など